

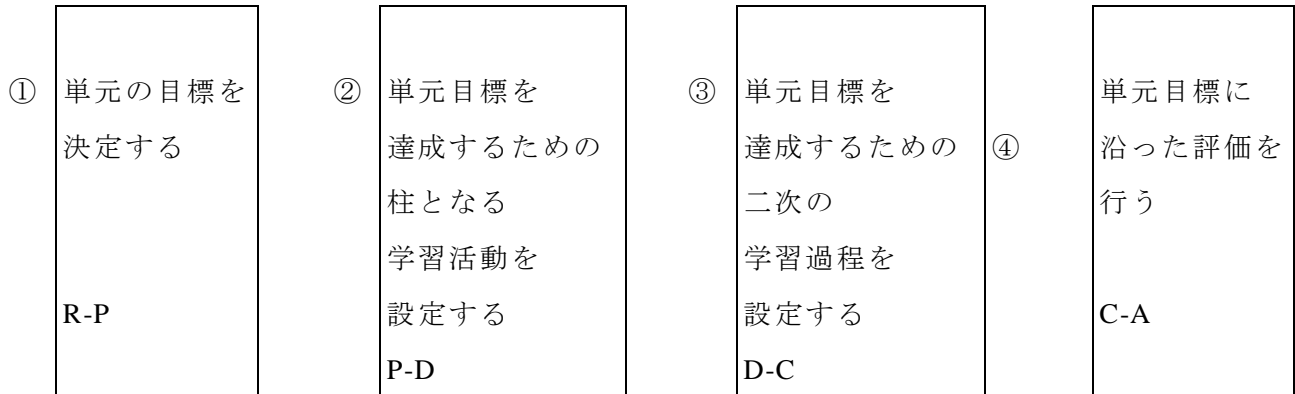
# 2020年度（令和2年度）研究推進案

学校教育目標	「心身豊かに学び合う子どもの育成」 子ども・教師が、心身ともに健康で、楽しく学びをすすめる
めざす学校像	今日の学び合いを喜び、明日の学びが待たれる学校
めざす子ども像	つよく ゆたかに のびゆく子 ① 意欲的に学び努力し続ける子 ② 豊かな心を持つ子 ③ 体を鍛える子
めざす教師像	子どもの心を動かす教師 ① 思考力・判断力・表現力を育て、学習意欲を引き出す教師 ② 互いに研鑽し、授業改善に努め続ける教師 ③ 子どもの実態を把握し、危機管理意識を持って迅速に協力して対応する教師
研究テーマ	「伝え合い ひびき合う学びをめざして <u>一学びを深める山場づくりー</u> 」
授業研究でめざす児童の姿	対話を通して、考えを深めたり広げたりできる児童
	<b>深い学びの定義</b>
	・課題を見いだして解決策を考える      ・知識を関連づけて理解する ・思いや考えを基に創造する              ・思いや考えを深化させる
	<b>深い学びの状態にある子どもの姿（つぶやき）</b>
	「なるほど」（納得） 「やっぱり」（確信） 「その方がいい」（変容） 「なぜ」（疑問） 「でも」（反応） 「じゃあ」（提案） 「たしかに」（共感） 「そういう訳か」「こう考えればいい」（気づき） 「それもいい」（受容）
	<b>深い学びを獲得するための山場のありかた</b>
	・児童の思考を再び揺さぶる「二つ目の問い」 ・お互いの考えを伝え合い、ひびき合わせるための「コミュニケーションの手立て」

## 研究内容と方法

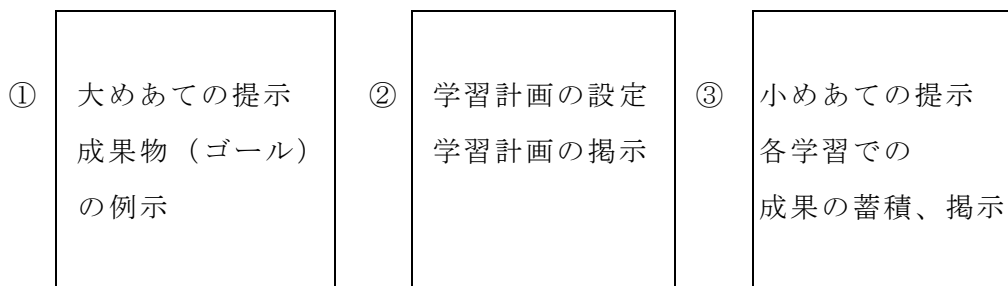
### 1 単元学習の方法

#### (1) 単元学習の設定



- ①教材の持つ特性を読み取り、学習指導要領をもとに児童につけたい力を設定する  
「知識及び技能」 「思考力・判断力・表現力」 「学びに向かう力、人間性等」
- ② 単元目標を達成できるような、「物語を書く」「図鑑をつくる」などの柱となる学習活動を設定する
- ③ゴールにつながることを前提とした2次の学習過程を設定する
- ④「本時の学習の理解」をB評価、「3次へのつながりを意識した理解」をA評価とする
- ※常に、「めあて」、「ふりかえり」、「評価」の3つが3次につながることを意識して設定する

#### (2) 児童と取り組む単元学習



### 2 授業研究の方法

#### (1) 山場に向かうための二つ目の問い

一つ目の問い→授業のはじめに出される問い、めあてに対して順接するもの  
既習事項の確認、誰もが意見を持ちやすいもの

二つ目の問い→一つ目の問いを受け、さらに出される問い  
めあてに深く迫るために設定される問い

- ・ 比べる ・ 共通点を見つける ・ 分類する ・ よりめあて達成に近いものを選ぶ
- ・ 重要な順をつける ・ 本文や資料と再度照らす ・ 教師が矛盾する視点を提示する
- ・ ミスリードされている子どもの意見を元に戻す ・ 限定する ・ 因果関係を考える
- ・ 新たな視点を提示しこれまでのものと対比させる ・ 説明を付け加える など

(例)

め 兵十とごんの違いから、ごんが兵十以上に孤独であることを読み取ることができる

①ごんはどうしてつぐないをしようと思ったのですか

②二人はどちらも同じようにひとりぼっちですか

## (2) 山場を支えるコミュニケーションの手立て

○目的

- ・ 考えをたしかなものにするため
- ・ 違う考えにふれるため
- ・ A と B から C を生み出すため

↓

一人で得ていた考えを深めるため

○方法

- ・ ペア、グループトーク、バズセッション
- ・ 列指名
- ・ ギャラリートーク、ワールドカフェ
- ・ 挙手やネームカードによる意思表示
- ・ 討論
- ・ 思考ツール、ホワイトボードによる可視化

↓

発達段階、めあてに照らして最も効果の高い方法を選ぶ

↓

その後の全体交流の場面では、子どもの意見をさらに深めるような、意図的な発言のつなげ方、板書、さらなる問い、まとめについて考えることが必要となる。

→教師のコーディネート

## (3) 新学習指導要領に対応した、目標に向かう指導と評価の一体化について

単元、本時の目標

→

単元、本時の評価

① 知識及び技能

→

知識・技能

② 思考力、判断力、表現力等

→

思考・判断・表現

③ 学びに向かう力、人間性等

→

主体的に学習に取り組む態度

①知識・技能の見取り

- ・ 叙述をもとに中心人物の心情を読み取っている

- ・ 三角形の求積を活用して、六角形の面積を求めている
  - ・ てんびんにおける重さと距離の関係をもとに、12個のおもりをつりあうようにぶら下げることができている
- 既習のものに関連付け、他の場面で活用できる

## ②思考・判断・表現の見取り

- ・ 読み取った中心人物の変化を、根拠をもとに心情グラフに表している
  - ・ 三角形の求積を活用して、面積が18cm<sup>2</sup>になる形の異なる三角形を作図している
  - ・ てんびんにおける重さと距離の関係を、表を活用してレポートにまとめている
- 獲得した知識を話す、書くなどの場面で整理して表出できる

## ③主体的に学習に取り組む態度の見取り

### ○粘り強い取り組みを行おうとする側面

⇒挙手の回数やノートのページ数などの「態度主義」による評価は否定されている

### ○自らの学習を調整しようとする側面

⇒めあてに対する学習の見通し、取り組みにおけるメタ認知、学習に対する自己評価

- ・ 「大豆変身ブック」作りに向け、資料から必要な情報を粘り強く選んでいる
- ・ キリスト教の禁教について、立場を明確にして進んで意見を述べている
- ・ 全員得点を達成するための作戦を、話し合いの中で積極的に意見している

※粘り強い取り組み、学習の調整の2点を満たすことでA評価となる

参考「学びを変える新しい学習評価」シリーズ①～③

## ◎評価を客観的に行うためのふり返りの書かせ方

ループリック評価を可能にするために、子どもたちの書く視点がある程度絞られることが望ましい

- ・ 使用するべきキーワードの提示
- ・ 書き出しの指定
- ・ 文字数の指定
- ・ 「一番〇〇と思ったこと」
- ・ 「最初の意見と比べて」 など

モニタリング・・・本時の取り組みのメタ認知

コントロール・・・本時を踏まえた上での単元全体の見通しや、社会生活などへの意識の広がり

### 3 学習指導案の書き方

別紙参照

### 4 授業力向上の取り組み

#### (1) 他教科研究授業

○国語を含めた全教科で、「山場」を意識して1時間の授業展開を考え公開する

○指導助言の先生からアドバイスを受ける

※国語科の形式と同様の指導略案を作成し、前日までに担当に提出する

#### (2) ミニ講座

○校内の職員で授業づくり・学級づくりに関わる講座を行う

※30分程度の自由参加形式とする

### 5 市内発表に向けた取り組み

(1) 市内発表 2月5日 低中高3学団プラスP室の発表予定

(2) 校内研 ① (6/26) ② (9/18) ③ (10/23)

5年

2年

4年

5校時(授業公開)、放課後(事後研究会)をおこなう

#### 事後研における討議の柱

○2つ目の問いによって山場を迎えることができていたか

○山場におけるコミュニケーションのあり方は適切であったか

○その他授業を参観して気づいたこと

※プレイ室在籍児童の参加について

普段国語をプレイ室で学習している児童は、他のクラスの子どもたちと同様に下校する。ただし、本人・保護者と相談の上、プレイ室に残って学習することもできる。

#### (3) 夏季研修会

講師を招聘し、市内発表学年それぞれに単元構想の指導助言を受ける。

また全体向けの、市内発表へ向けた講話を聞く。